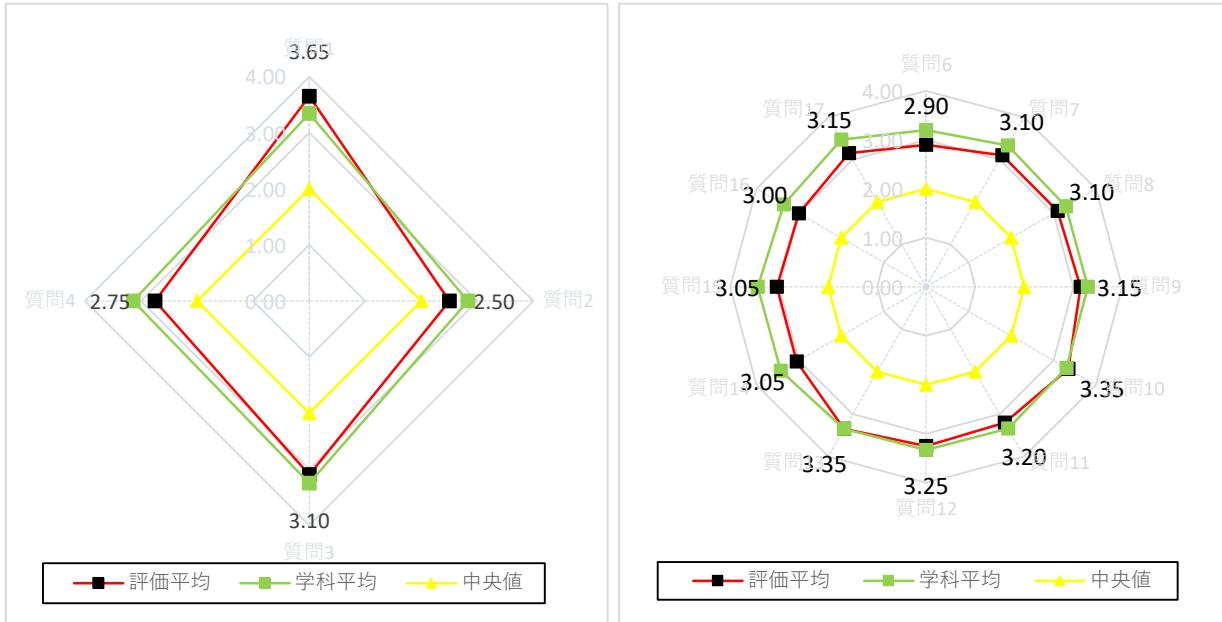


学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		基礎演習あすなろう	40名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

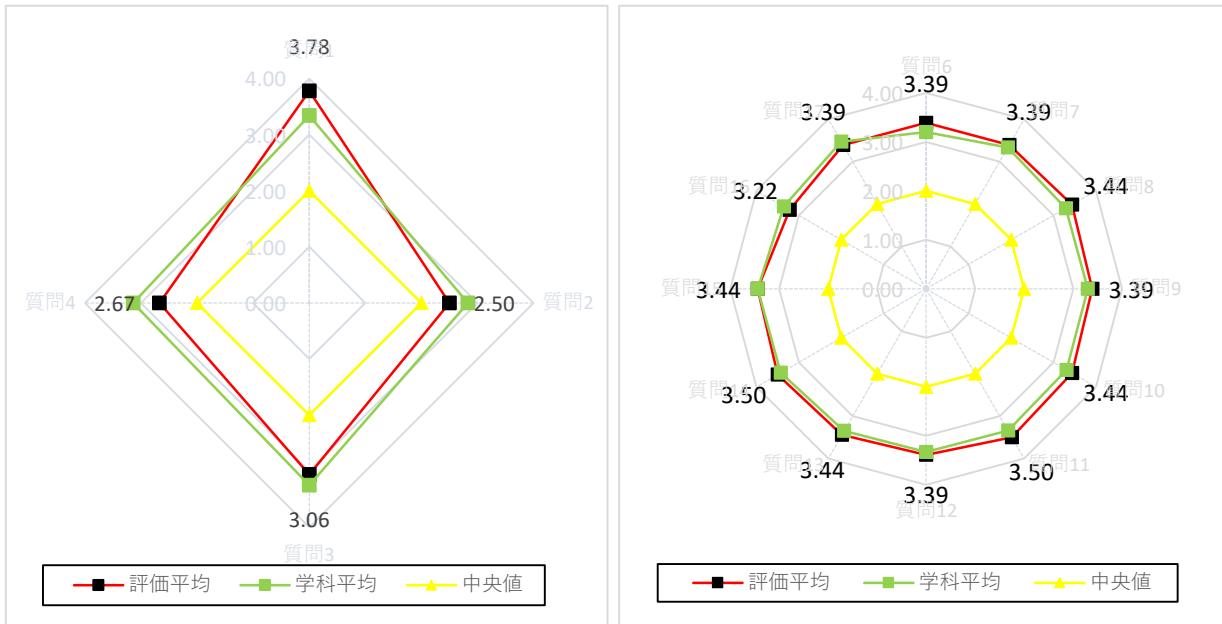
良好

(3) 次年度に向けての取り組み

継続します

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		あすなろう体験 I (基礎)	40名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

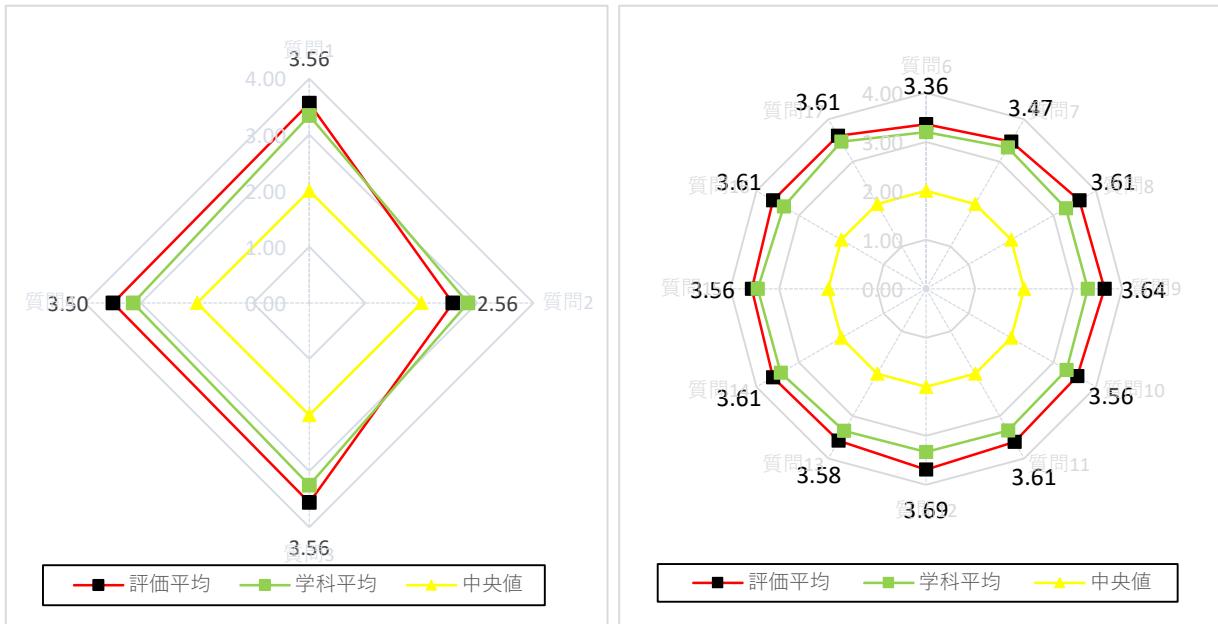
良好

(3) 次年度に向けての取り組み

継続します

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		体表解剖学実習	43名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

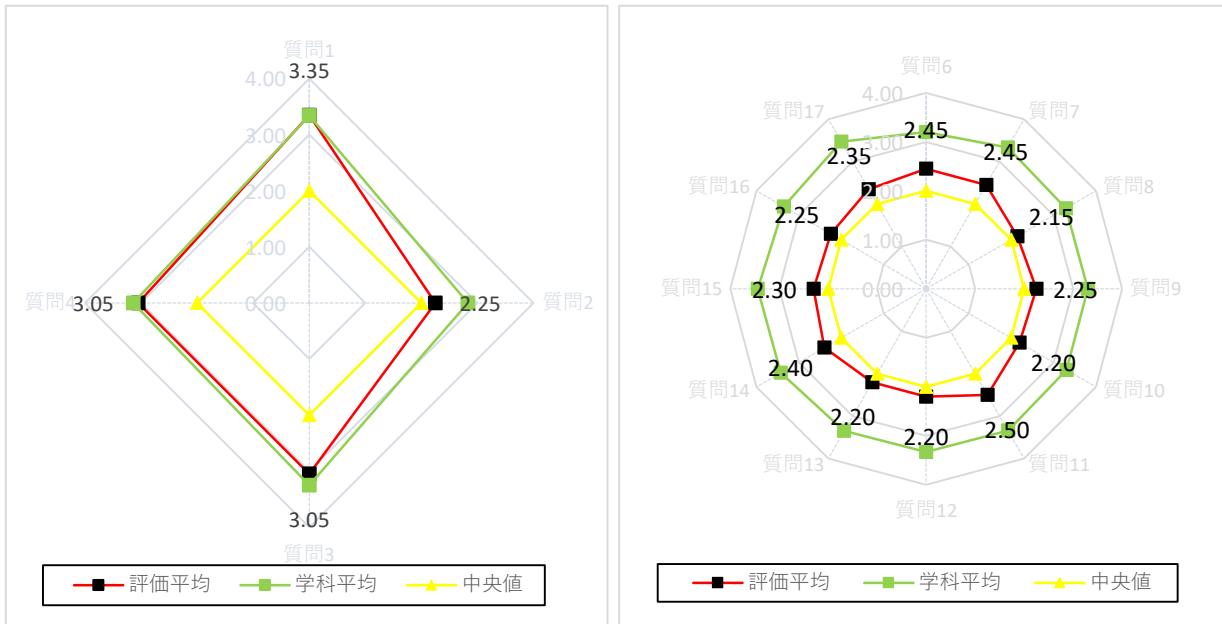
全体的にはおおむね学科平均と同等である。シラバスの説明については各講義初回時に行っている。それでも説明を受けていないという学生がいる点については、シラバスを印刷し配布することまで検討しなくてはならないかとも考える。また、学生全体の学修状況に合わせて実習そのもののスピードを調整している。そのためシラバス通りの進行に至らない時もあるが、概ね誤差の範囲内であると考えている。唯一問題として考えられるのは、体表の筋を触知するという実習であるため、時間的に一人一人の触診技術をすべて確認出来るわけではない。

(3) 次年度に向けての取り組み

中間テストによる触診技術の確認やシラバス配布等を行う予定。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動学	49名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

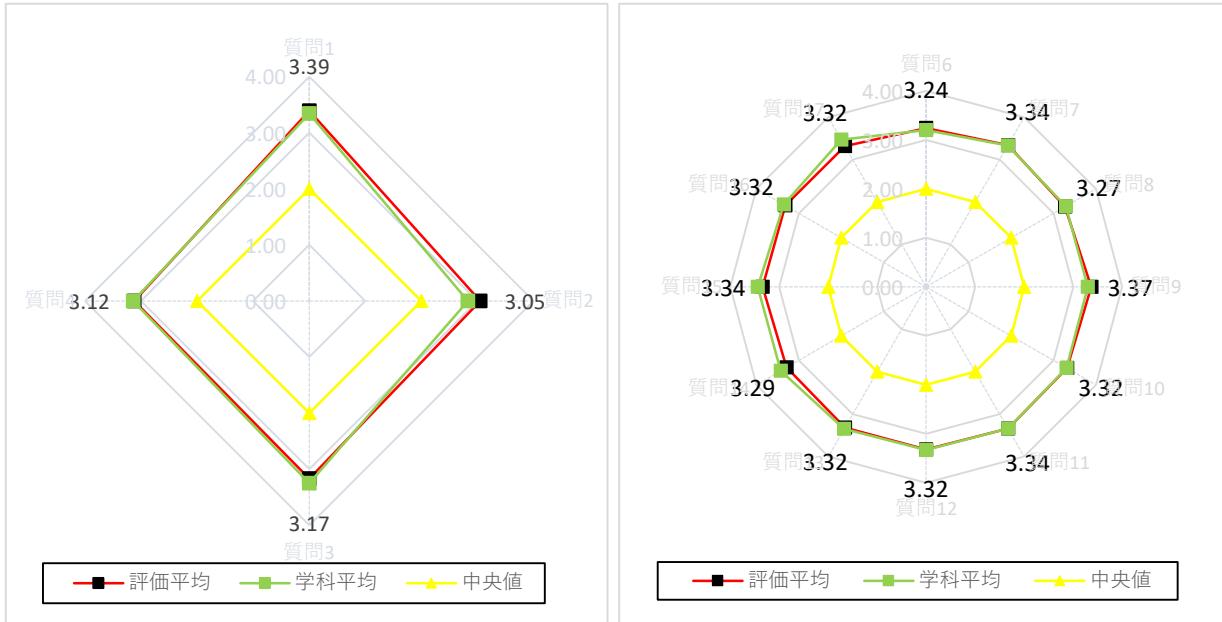
授業内容、進め方など改善点があることが理解できました。
次年度に生かせるようにさせていただきます。

(3) 次年度に向けての取り組み

今回の結果を受けて、全体的に見直し1から取り組んでいこうと考えております。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動学演習	49名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

前通りに学科平均程度の評価を頂いた。

特に低かった項目は、視覚教材の使用方法であった。

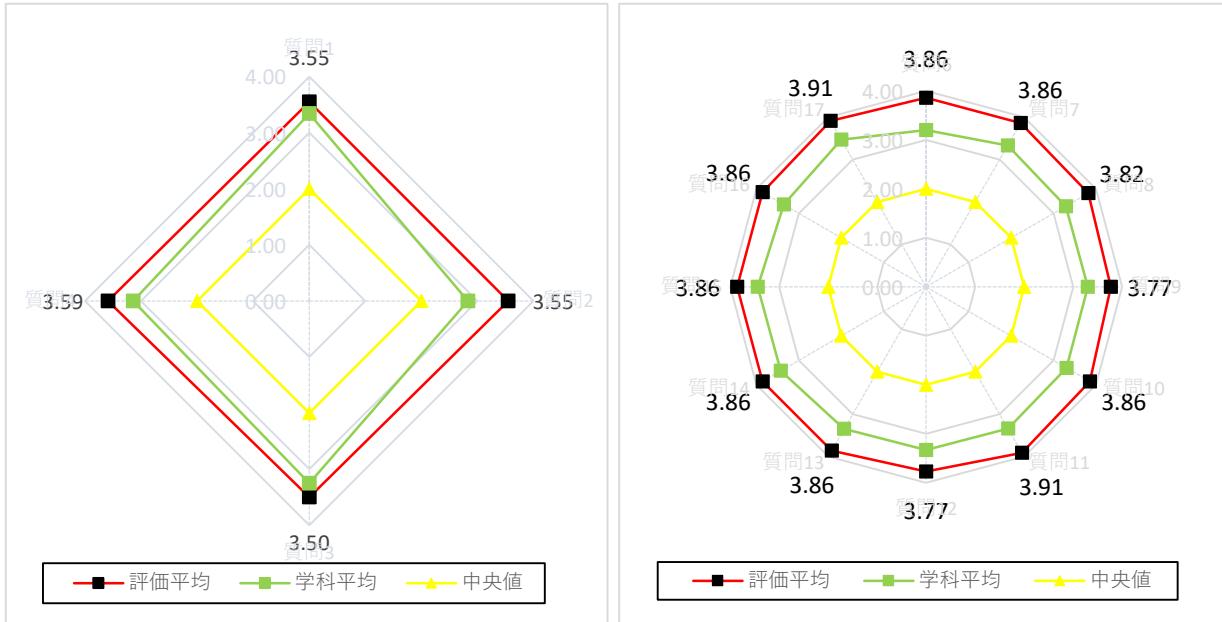
演習科目であるため実技中心の講義であったが、適宜視覚教材を活用する必要があると考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

実技を中心とした講義であっても視覚教材の追加導入を検討する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		画像診断学	49名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

全般的に良好な結果が得られた。

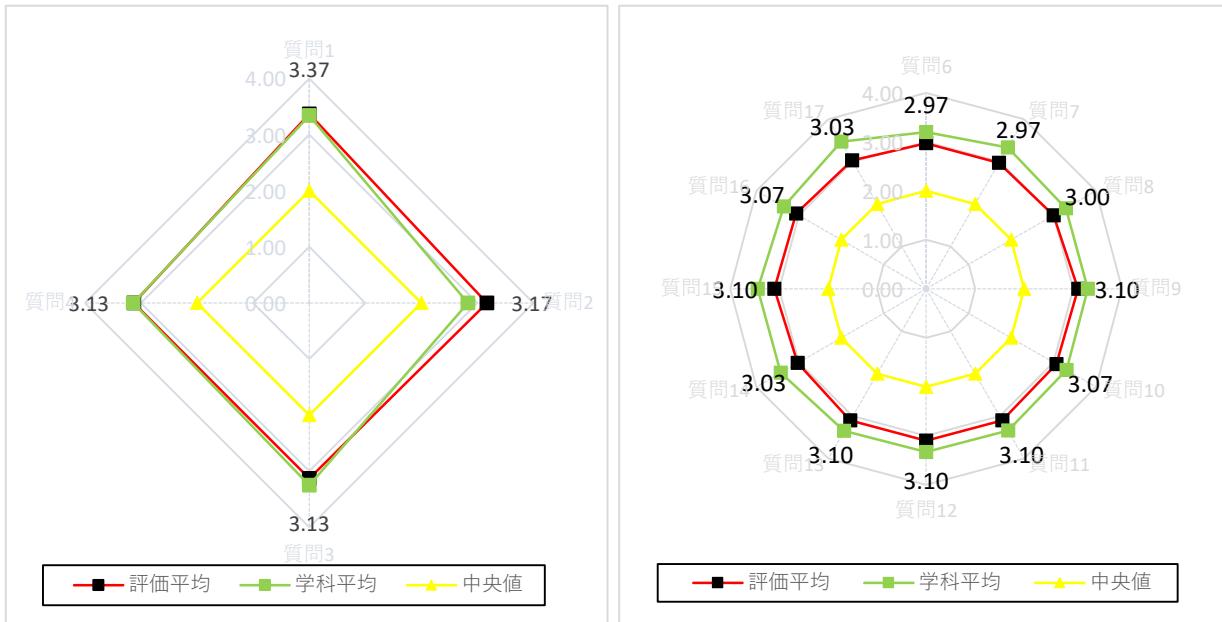
質問6から17までに関して、どの質問項目も学科平均を上回ったため、講義手法は比較的に間違っていないかったと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、講義手法をよりブラッシュアップさせ、学生が理解しやすい内容にしたいと考える。
アクティブラーニングを取り入れにくい座学であるが、積極的に取り入れていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		安全管理運営学	30名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

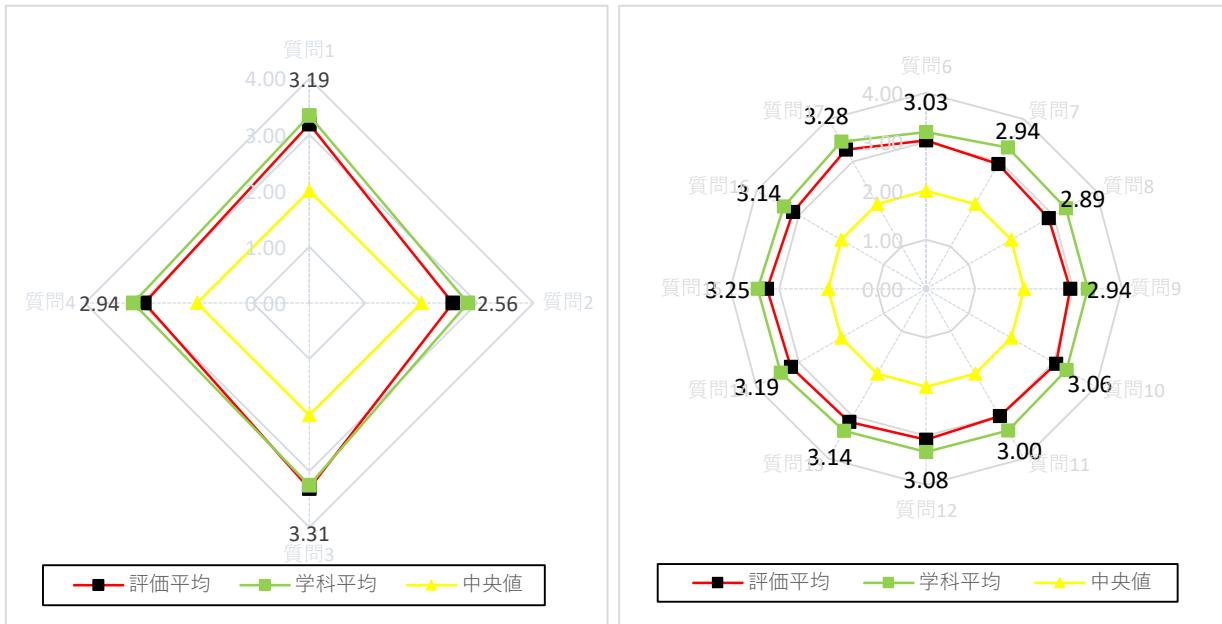
全般的に学科平均に比べて低い評価が出ている。特に、「授業は興味・関心が持てる工夫がされていましたか」、「授業は分かりやすくする工夫がされていましたか」の質問で、低い評価が出ていた。シラバスの活用については学科平均より低い結果が出ている。

(3) 次年度に向けての取り組み

複数教員によるオムニバス形式で授業展開してきたが、事前の十分な打ち合わせが不足したことが、興味関心を喚起するに至らず、なおかつ分かりやすく授業をする工夫が不足したものと考えられる。次年度は、今回の結果を受けた授業改善に取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		リハビリテーション概論	44名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

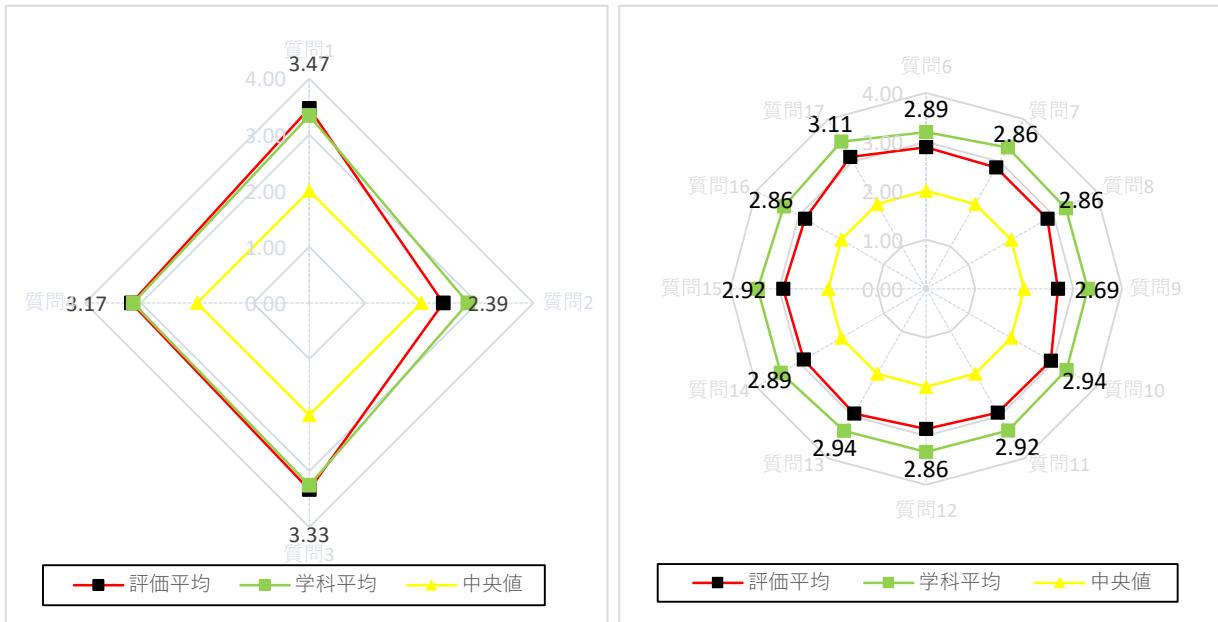
全般的に学科平均に比べて低い評価が出ている。特に、「授業は興味・関心が持てる工夫がされていましたか」、「授業は分かりやすくする工夫がされていましたか」の質問で、低い評価が出ていた。

(3) 次年度に向けての取り組み

2教員によるオムニバス形式で授業展開してきたが、事前の十分な打ち合わせが不足したことが、興味関心を喚起するに至らず、なおかつ分かりやすく授業をする工夫が不足したものと考えられる。次年度は、教員一人に絞った授業展開を行う予定であり、今回の結果を受けた授業改善に取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法学概論	43名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

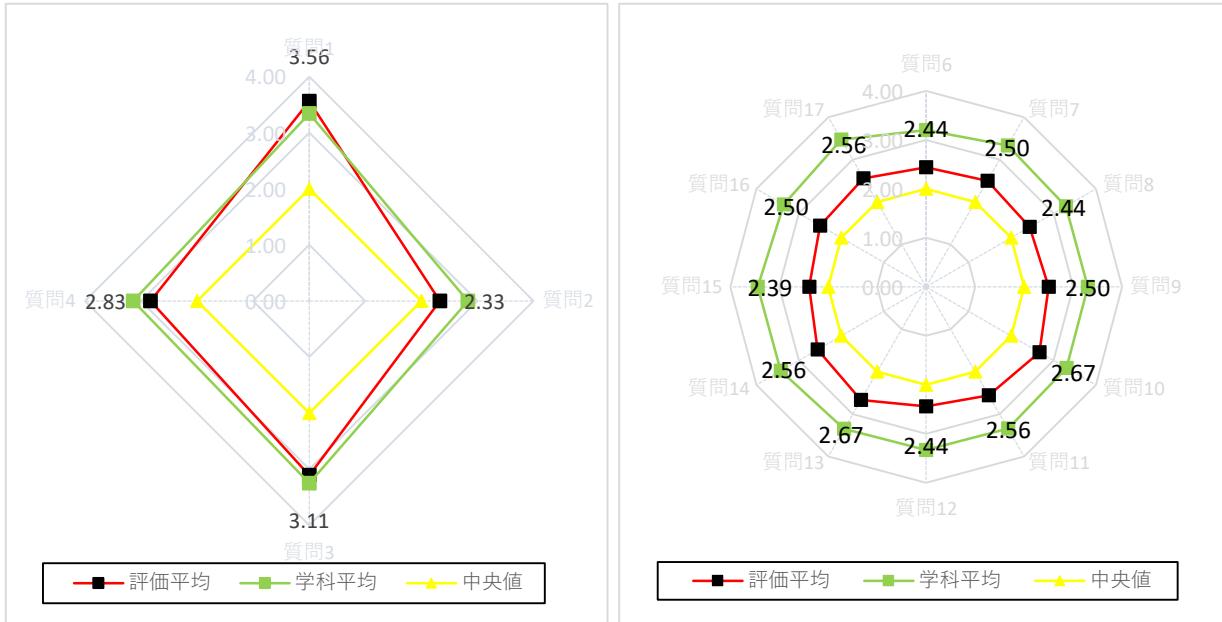
全般的に学科平均に比べて低い評価が出ている。特に、「授業は興味・関心が持てる工夫がされていましたか」、「授業は分かりやすくする工夫がされていましたか」の質問で、低い評価が出ていた。また、シラバスの有効活用ができていない現状であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

複数の教員によるオムニバス形式で授業展開してきたが、事前の十分な打ち合わせが不足したことが、興味関心を喚起するに至らず、なおかつ分かりやすく授業をする工夫が不足したものと考えられる。次年度は、教員一人に絞った授業展開を行う予定であり、今回の結果を受けた授業改善に取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		基礎作業学	40名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

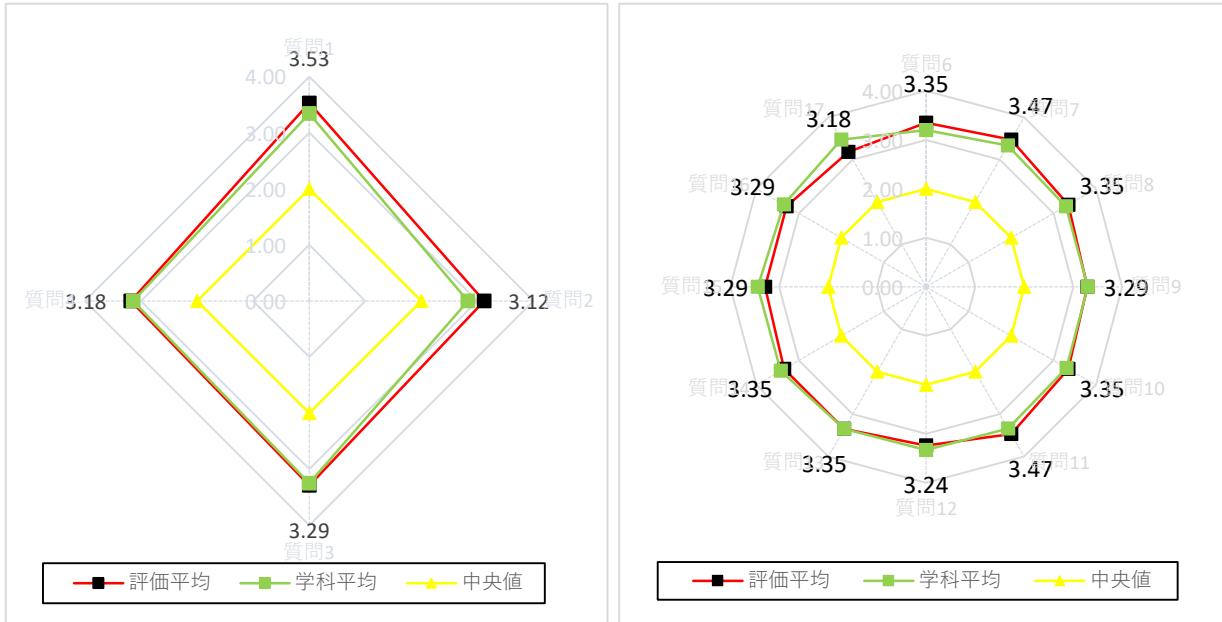
全体的に低い傾向になっていることを真摯に受け止めて次年度からの講義に役立てていこうと考えております。

(3) 次年度に向けての取り組み

資料や講義のあり方を1から考え直していこうと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		基礎作業学実習	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

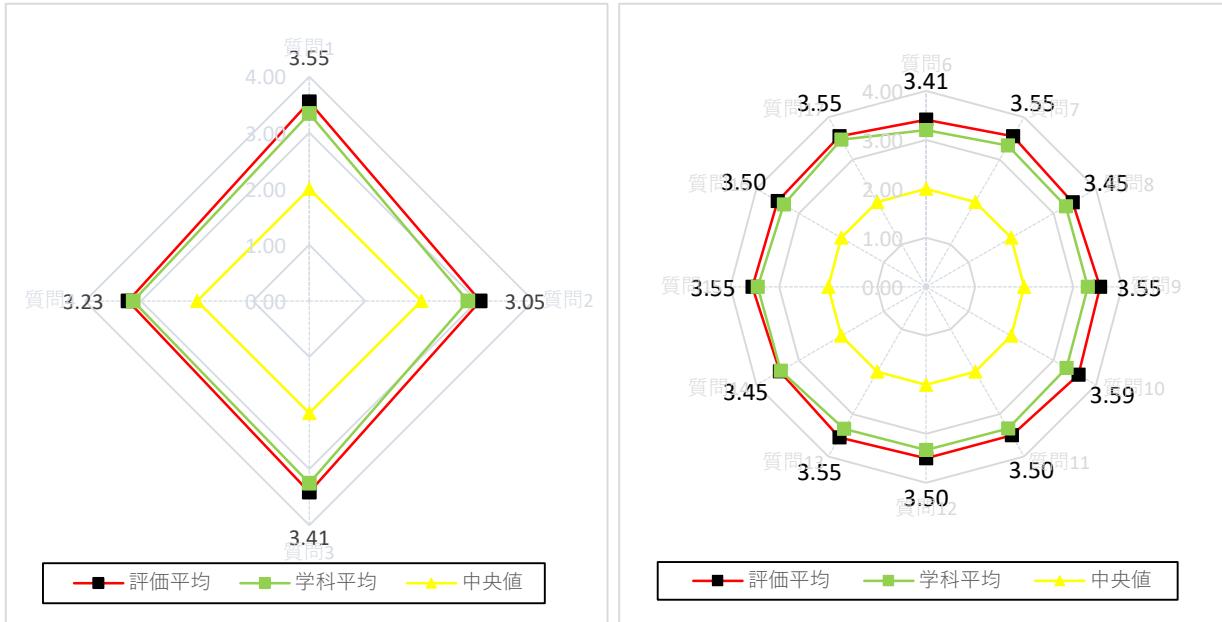
49人中25名より回答があった。なかでも、質問2の項目が最も低かった。また、質問項目以外で回答している学生もみられた。

(3) 次年度に向けての取り組み

講義の初回時に、シラバスを含む講義目標や目的等のプリントを配布し、事前説明を十分に行った。次年度は講義終了時にアンケートへの回答を依頼したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		園芸論	45名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

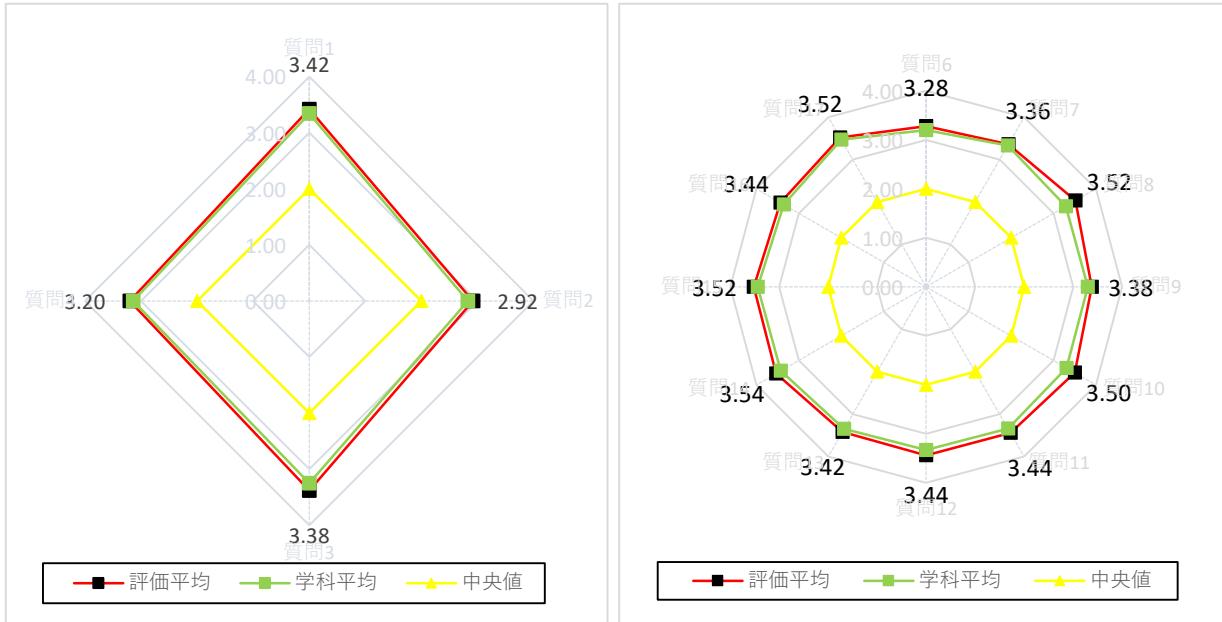
良好

(3) 次年度に向けての取り組み

さらに工夫を凝らす予定です

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		園芸療法論	57名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

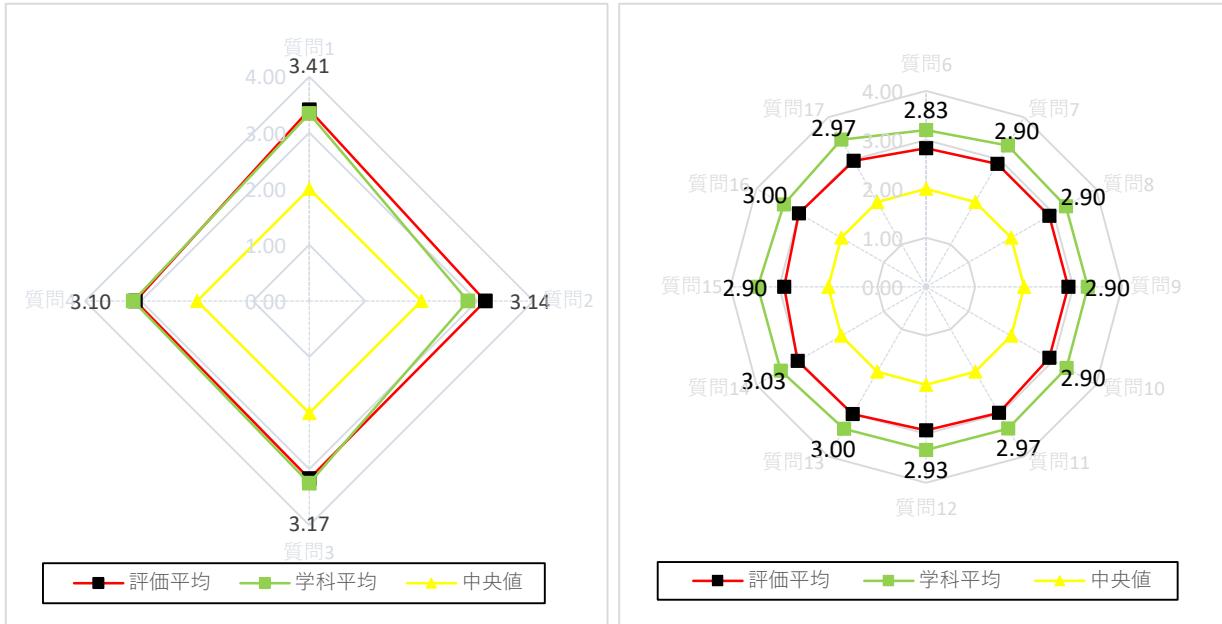
受講者が多い割には良好

(3) 次年度に向けての取り組み

決め細かな資料を提示したり、よりアクティブラーニングを取り入れる

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法総合演習	29名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

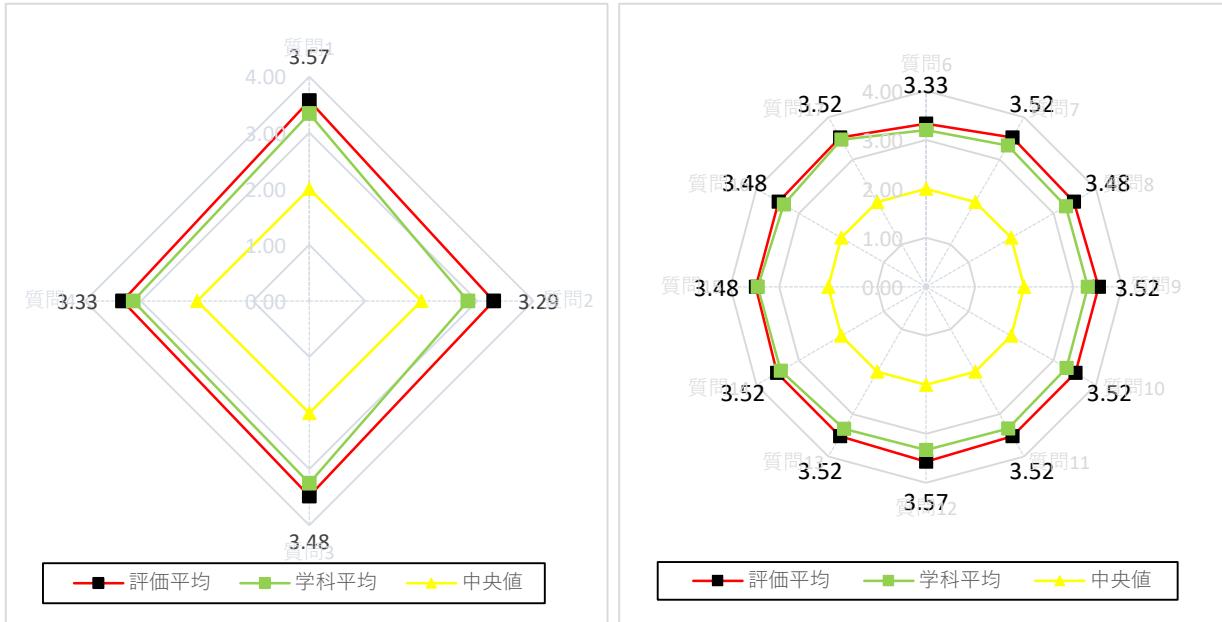
オムニバスが評価が低くなっている要因になっている可能性があるのではないか？

(3) 次年度に向けての取り組み

各担当時間をしっかりこなす工夫をしたい

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		ガーデニング	45名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

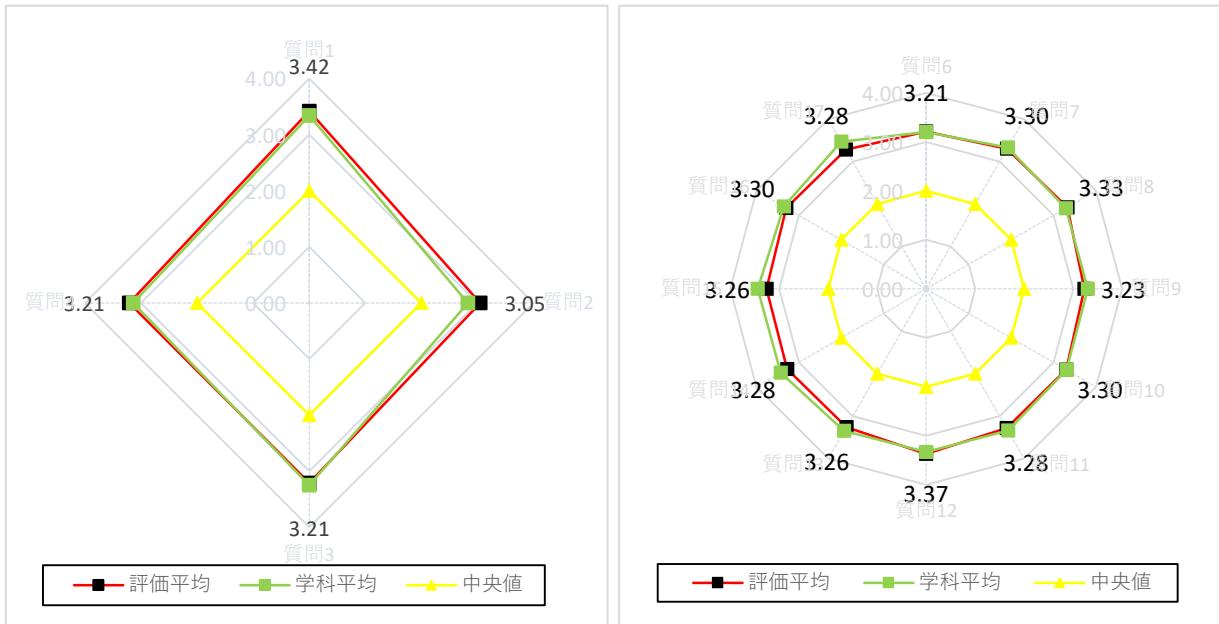
良好

(3) 次年度に向けての取り組み

継続してアクティブラーニングを取り入れる

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法評価学 I	52名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

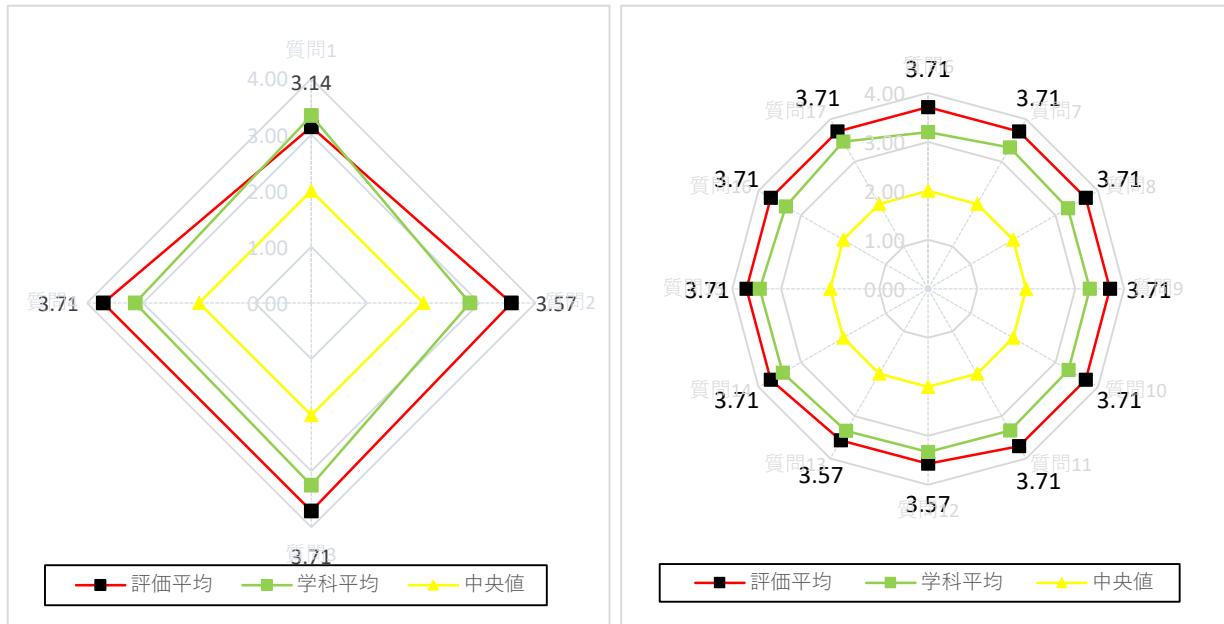
前次年度の反省を元に、シラバスを用いた説明の徹底と、質問時間の確保などに努めた。52人中43名の回答が得られた。概ね高評価であったが、質問2が最も低かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

昨年度と同様にシラバスやレジュメを活用し、分かりやすい講義展開を心掛ける。また、今年は受講者が多かったため2グループ制をとり少人数制での講義を開講した。次年度も同様にして開講したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法評価学Ⅱ	50名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

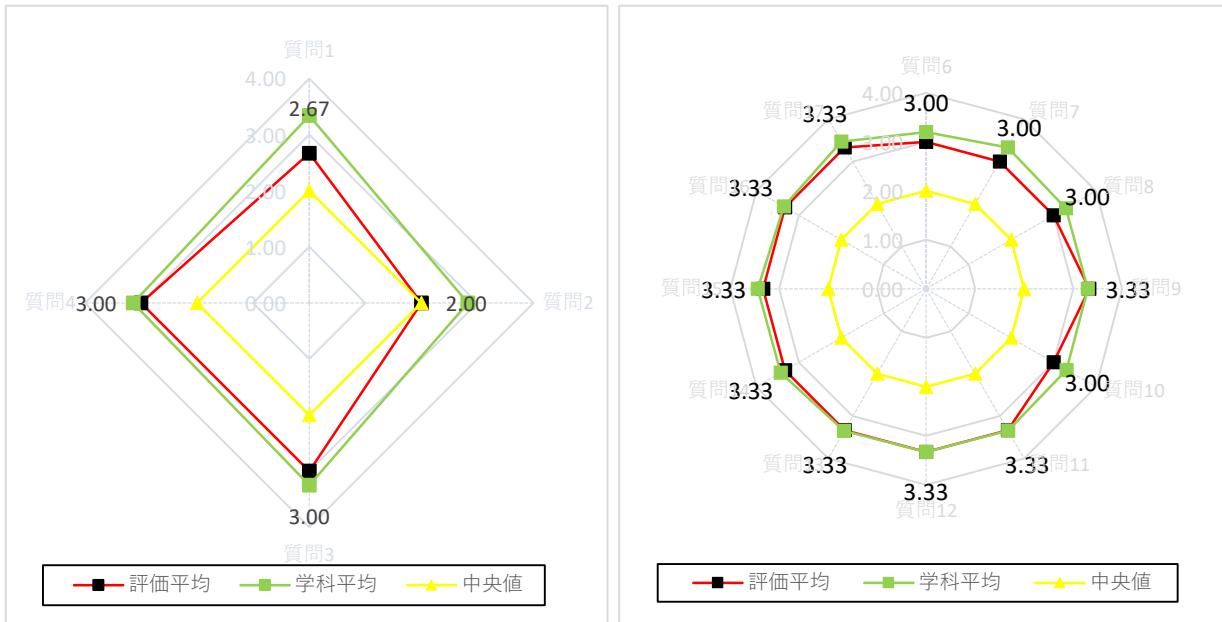
質問1の「欠席回数」については学科平均を下回ったが、その他の項目においては学科平均を上回る高評価を頂いた。
 欠席回数については、多くの学生が欠席なしであったが、一部複数回欠席した学生がいたことが影響していると考える。
 全体的に平均を上回る評価を頂いた理由としては、毎時間のレジュメ配布など、学習を促進するような取り組みをしたことが影響していると考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

前年度は学期末の筆記試験のみであったが、次年度は小テストや中間テスト、自己評価テストなども実施し、学期中の自己点検が可能なように工夫したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		身体障害作業療法学	29名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

全受講生中、評価入力者が3名と著しく回答率が悪かった。

理由としては、学期末に臨床実習が重なるため、補講を行いながら早めに15階の講義を実施したことにより、アンケート入力のタイミングが無かったこと。

授業評価アンケート入力機関が実習と重なったことなどが考えられる。

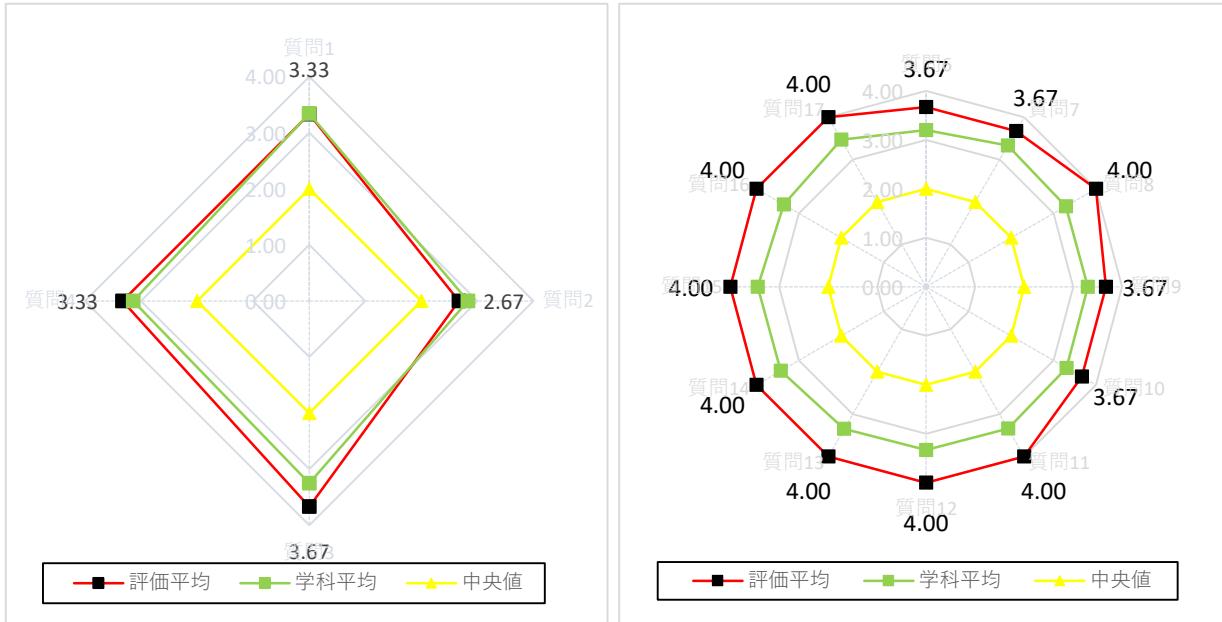
入力した学生の意見によると、質問2シラバスの活用と質問10資格教材や板書の使い方が低い評価であったため、次年度の課題である。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は視覚教材の追加、板書の整理、シラバスの活用を徹底する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		身体障害作業療法学演習	27名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

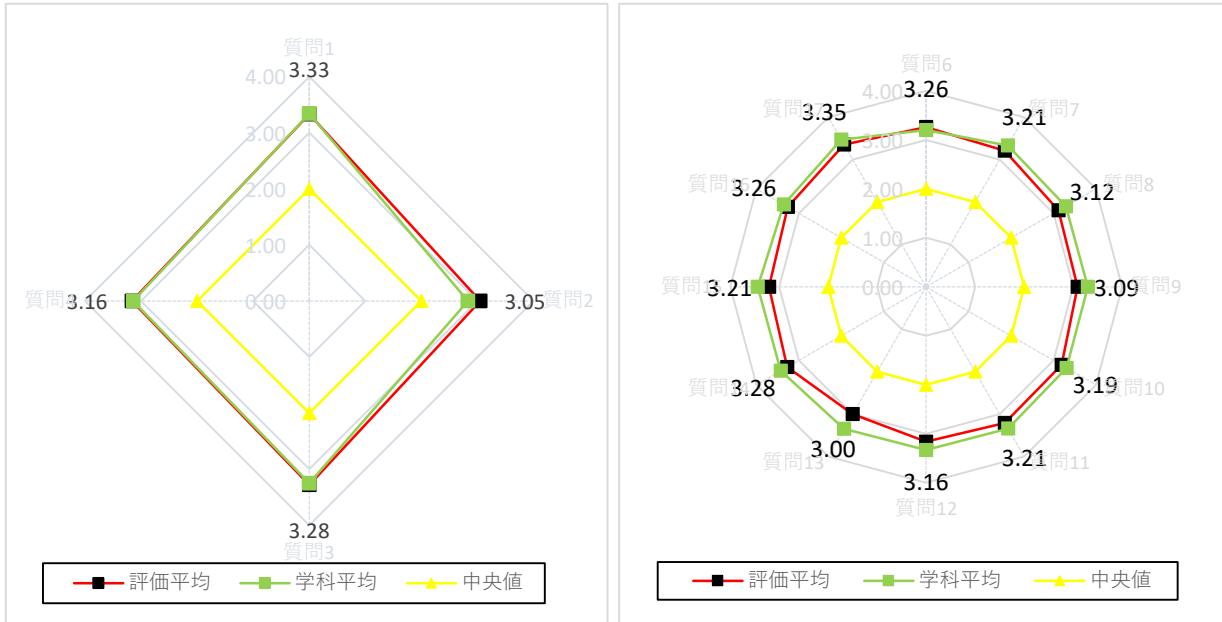
質問1から7については、学生の自己評価が平均値よりも低い項目があった。
質問8から17に関しては平均を大きく上回っているため、昨年の反省が活かされたと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

質問1から7については、シラバスを活用させたり学生が主体的に授業を理解するように段階づける必要があると考える。
地域活動を通した授業は概ね成果を上げたと推察されるため、今後も継続する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法評価学演習 I	52名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

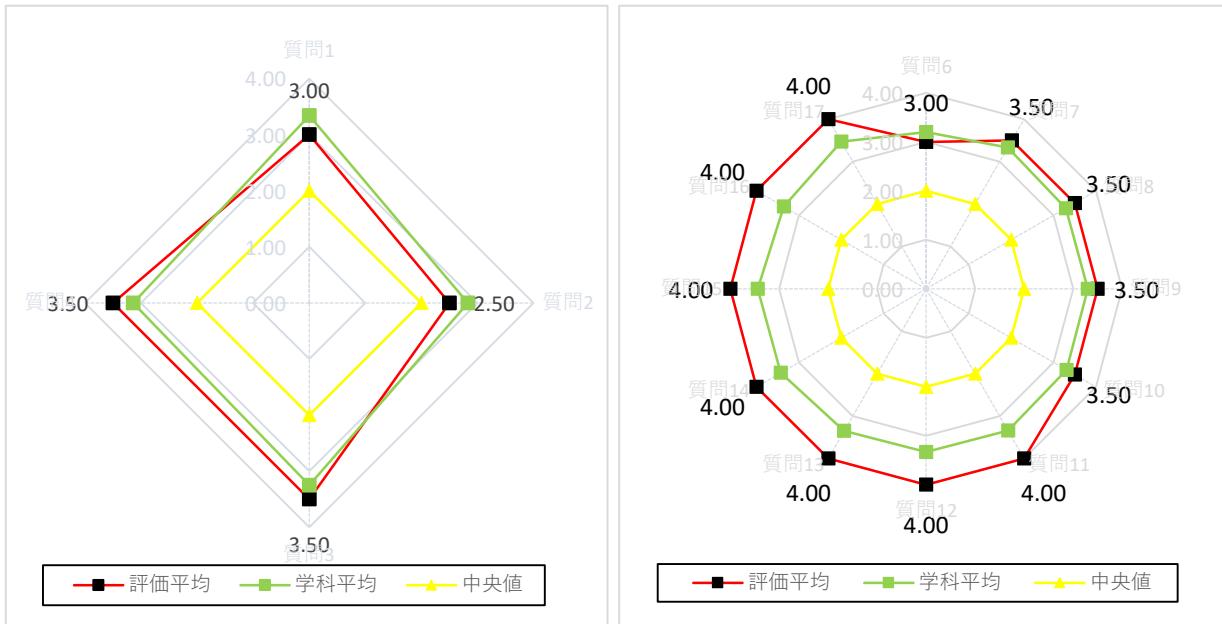
学科の平均値に近い数値となっておりますが、これに甘んじることなく、次年度に向けてさらに向上できるようにしていきたいと思います。

(3) 次年度に向けての取り組み

基本的には今回の講義資料をベースにさらにわかりやすく実施できるように心がけようと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		精神障害作業療法学	26名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

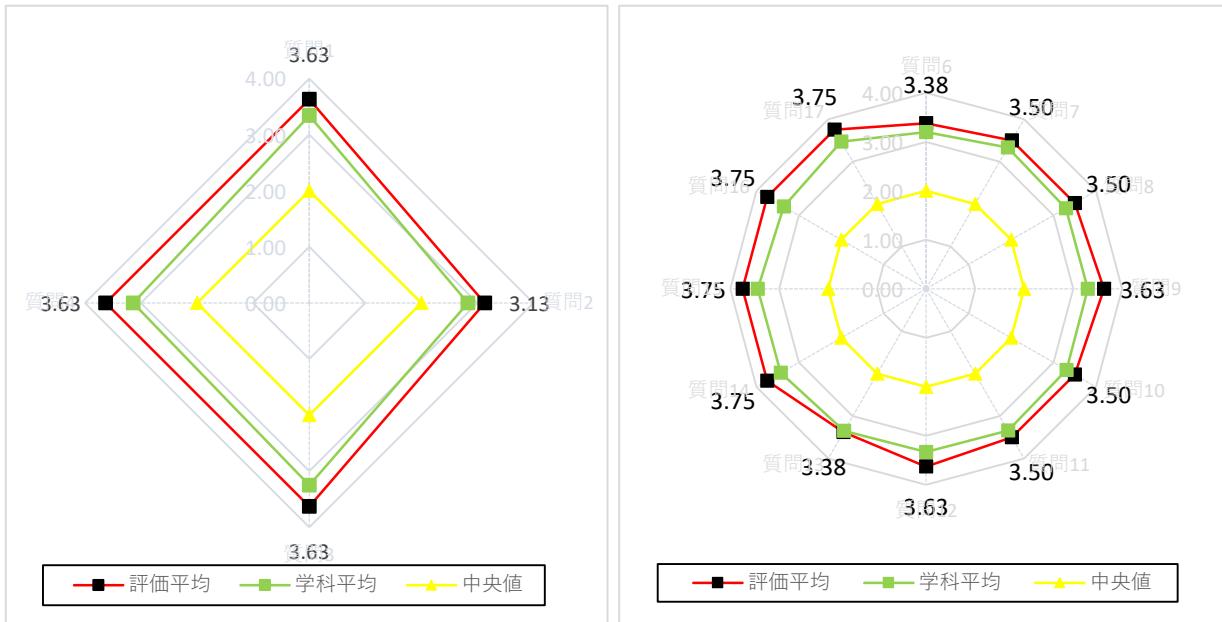
全般的に学科平均に比べて高い評価が出ている(結果平均 : 3.58、学科平均3.12)。しかし、シラバスの活用については学科平均より低い結果が出ている。

(3) 次年度に向けての取り組み

2教員によるオムニバス形式で授業展開してきたが、うまく構成できたと考えられる。次年度は、より有効なオムニバスの展開を行うとともに、シラバスの活用にも注意を向けたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法評価学演習Ⅱ	50名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

概ね学科平均を上回るか、同程度の評価を頂けた。

平均を下回った項目は、質問13授業の進む速さであった。

元々講義実施範囲の広い科目であったため、一限あたりの進捗を早くする必要があった。

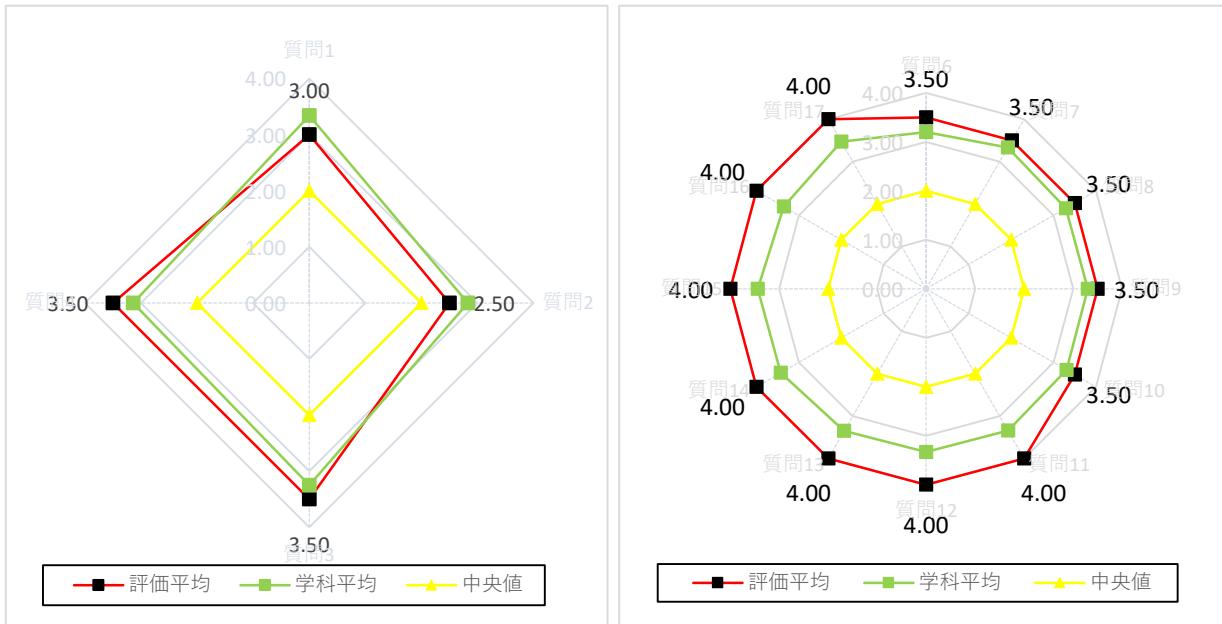
また、演習科目であるため配布資料も少ないため、各学生が授業進捗の見通しを立てづらく、結果として講義が早すぎるように感じた可能性がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

講義の進捗予測や、現在の到達度を可視化するための資料配布するなどの取り組みを行いたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		精神障害作業療法学演習	26名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

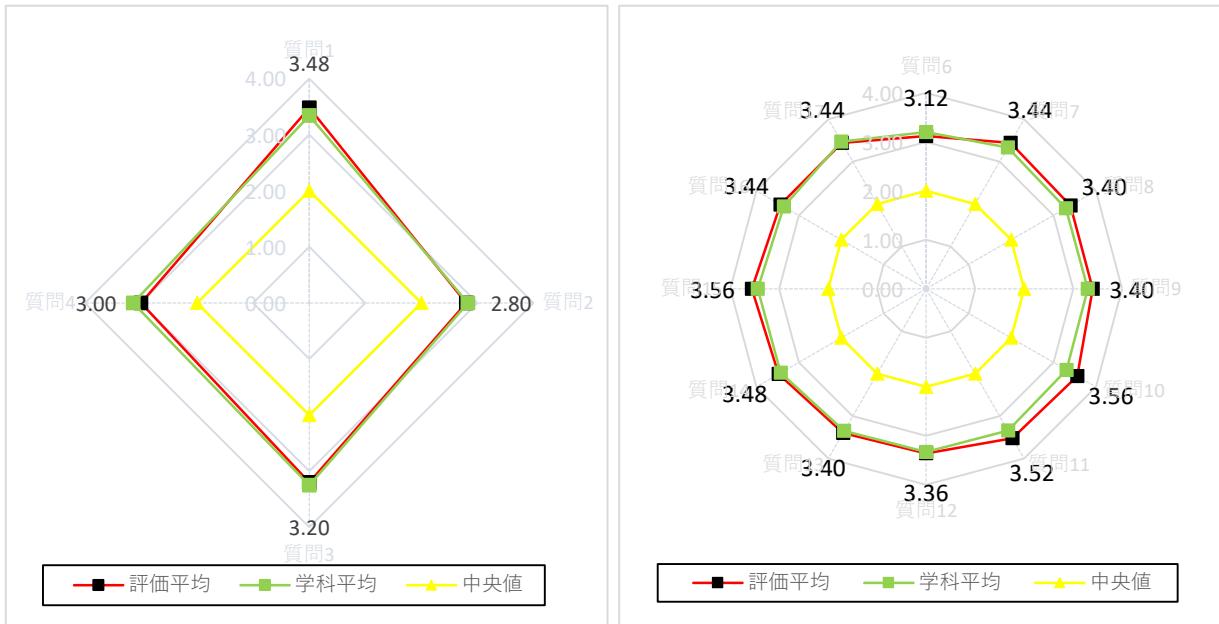
全般的に学科平均に比べて高い評価が出ている(結果平均 : 3.61、学科平均3.12)。

(3) 次年度に向けての取り組み

2教員によるオムニバス形式で授業展開してきたが、うまく構成できたと考えられる。次年度は、より有効なオムニバスの展開を行うとともに、シラバスの活用にも注意を向けたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		老年期障害作業療法学	27名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

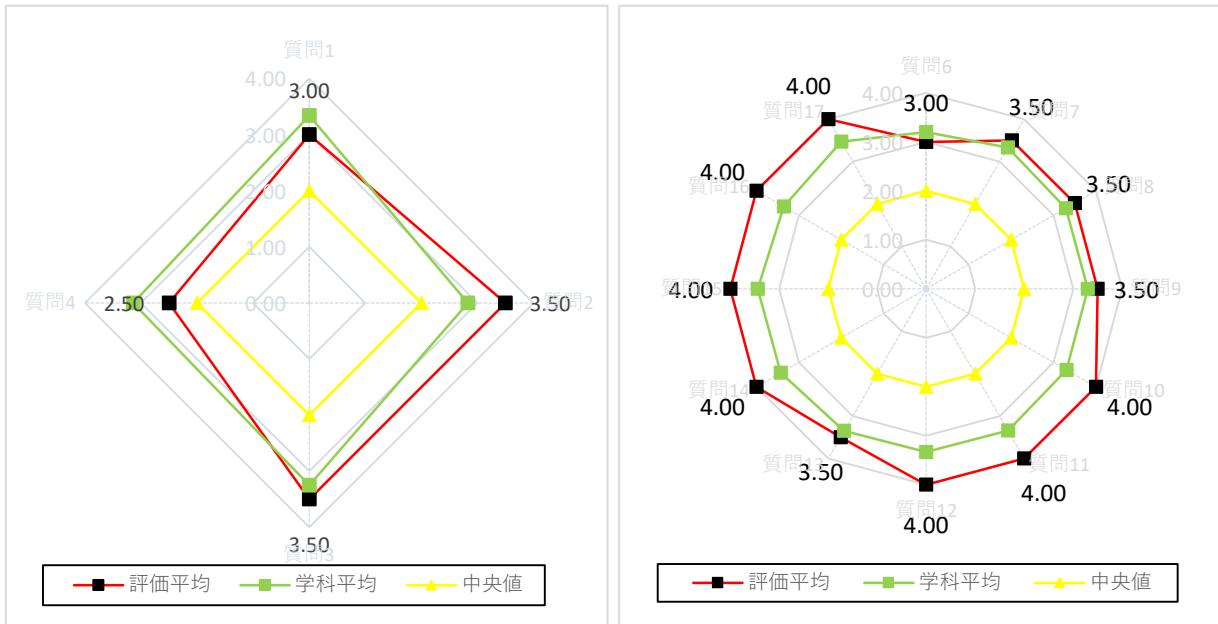
昨年度同様に講義を展開した。27人中25人から回答が得られた。概ね高評価であったが、質問2が最も低かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

質問2について、初回講義の際は授業計画について資料を配布し説明しているが、その説明について理解できていない可能性がある。次年度からはさらに詳しい説明を行う必要があるのかもしれない。次年度は全員に講義アンケートを回答してもらえるように依頼したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		老年期障害作業療法学演習	26名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

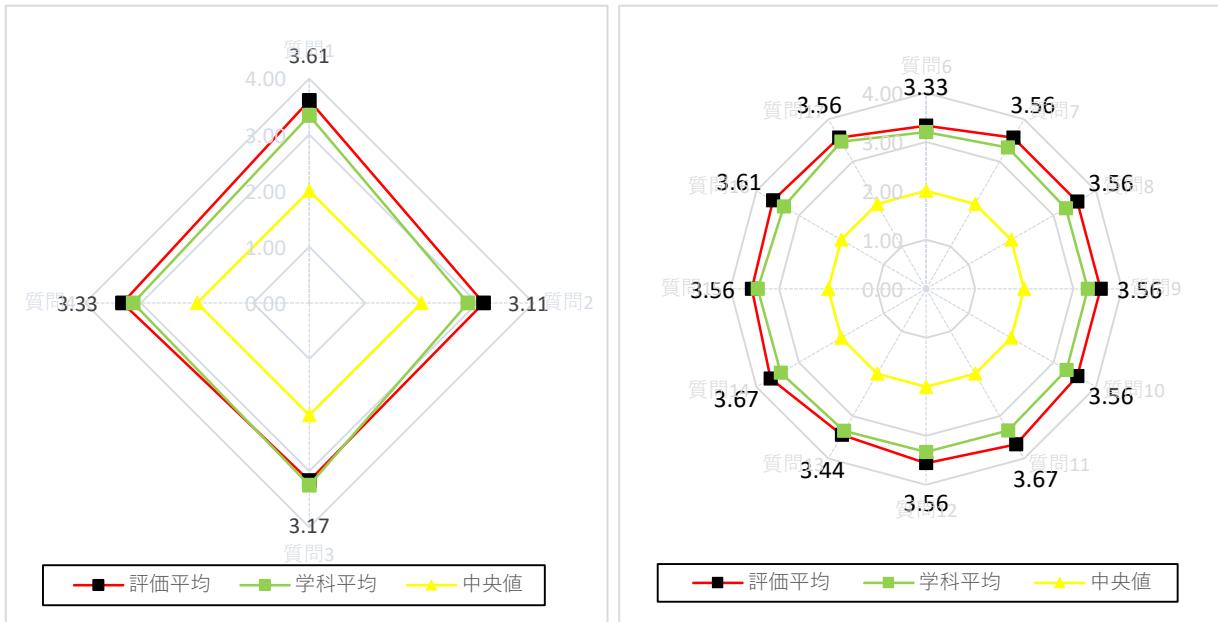
26名中2名の回答があった。回答者があまりにも少なかったため、分析はできなかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

この時期は臨床実習が控えており、回答率が低い傾向にある。また、講義アンケートの実施を口頭で依頼しているが、今後は講義時間中に回答を実施するために、時間を設ける必要があるのかもしれない。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		高次脳機能障害作業療法学	24名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

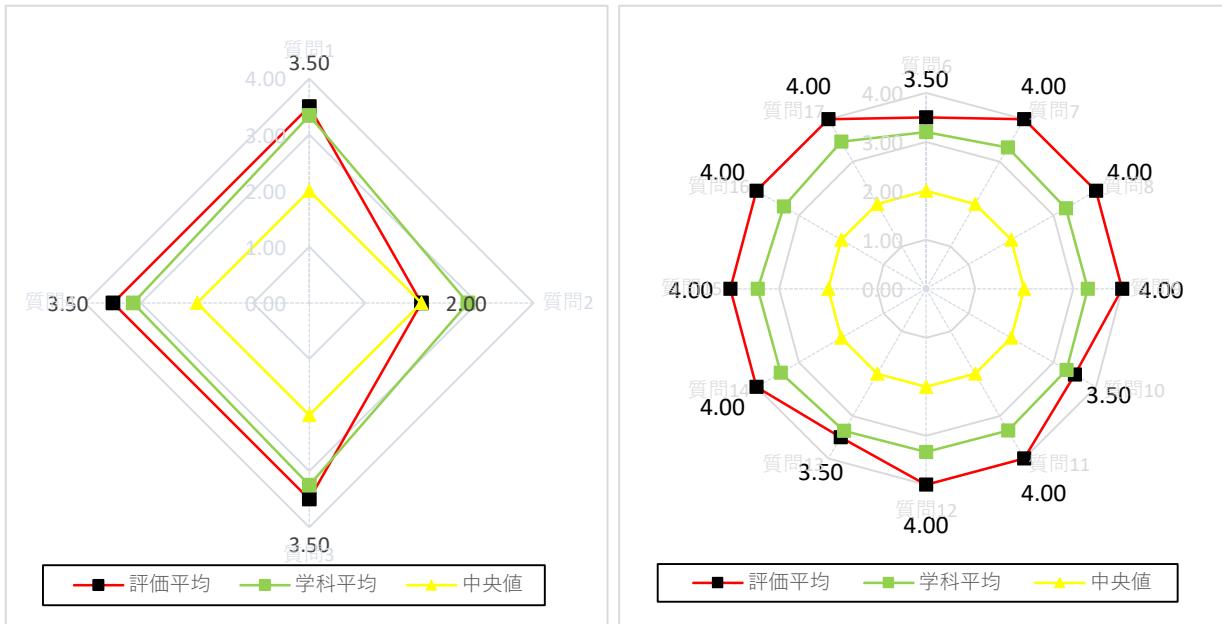
概ね学科平均と比較し変化ないため問題ないと考える。座学としてのボリュームが非常に多い科目であるため適切な講義スピードを維持したい。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度より後期科目の専門科目である高次脳機能障害作業療法学演習が閉講となるため、さらにこの科目の持つボリュームが上がってしまうため、他の科目で補填可能か否か検討する必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		高次脳機能障害作業療法学演習	28名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

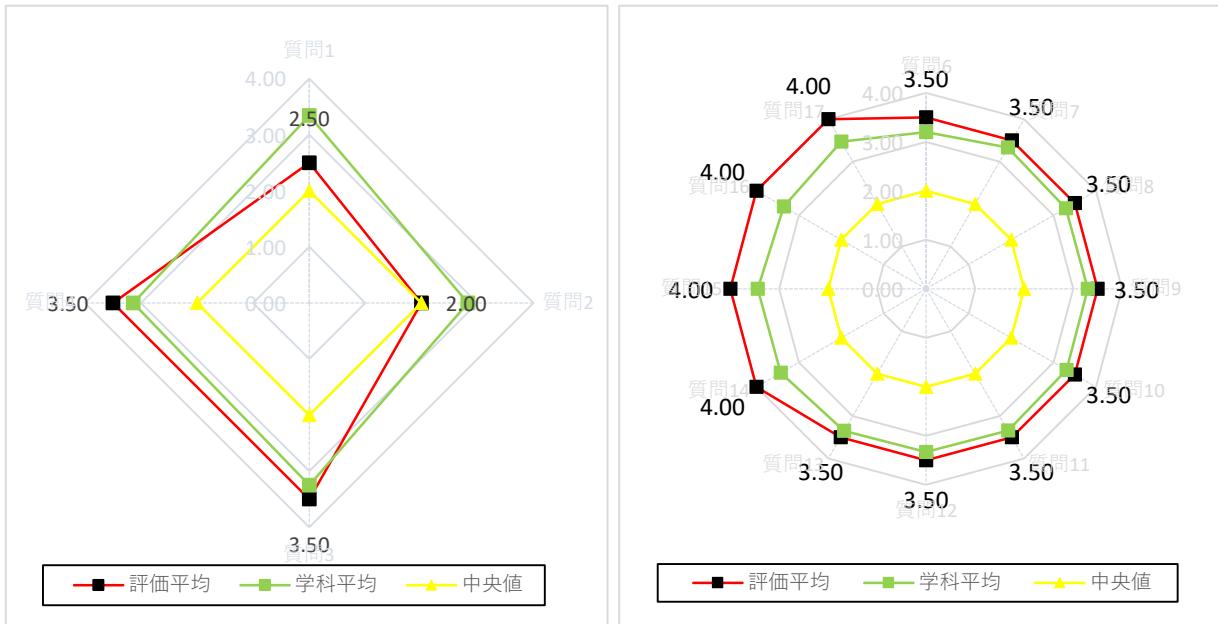
回答学生が2名のため分析の話以前ではあるが、シラバス通りに講義自体は実施している。むしろICFやICIDHの基本的な部分から補填した。演習メインでの実施となっているため学生の主体性が求められる科目であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は実施されない科目である。専門科目であり、多くの疾患で生じる高次脳機能障害であるため様々な評価技法や治療について網羅しておく必要性があるのは確かである。そのため他の科目の中で補填出来るよう配慮する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		生活技術学	25名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

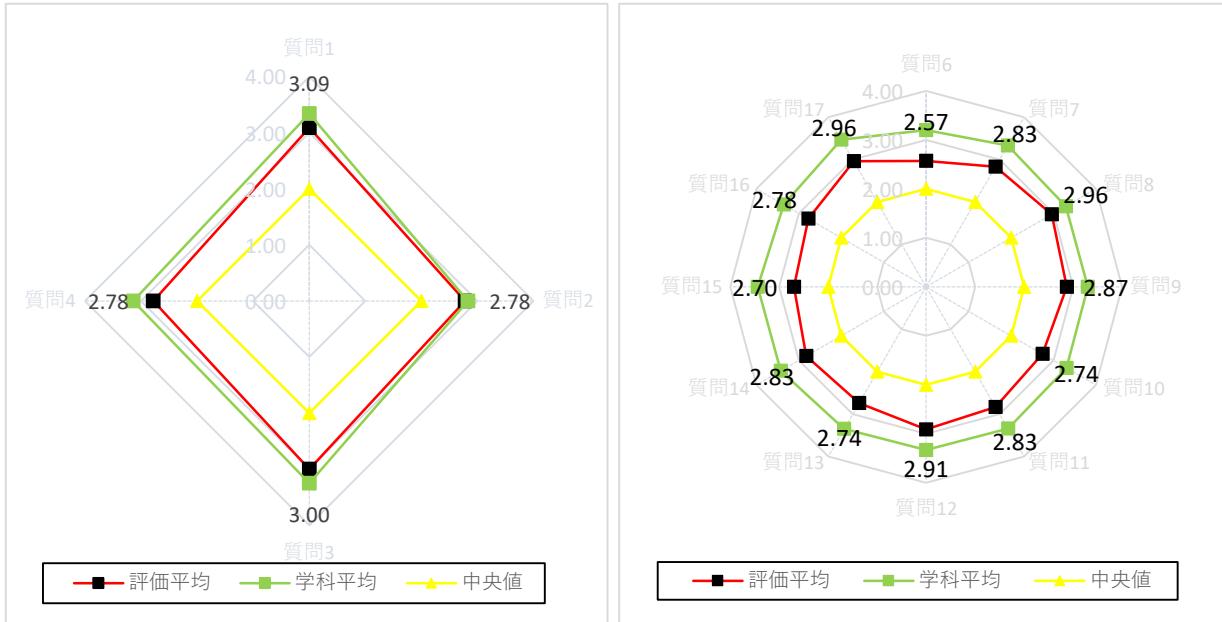
26名中2名の回答があった。回答者があまりにも少なかったため、分析はできなかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

回答率が低かったため、今後は、講義時間中に回答を実施するための時間を設ける必要があるかもしれません。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法技術学演習 I (身体障害)	23名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

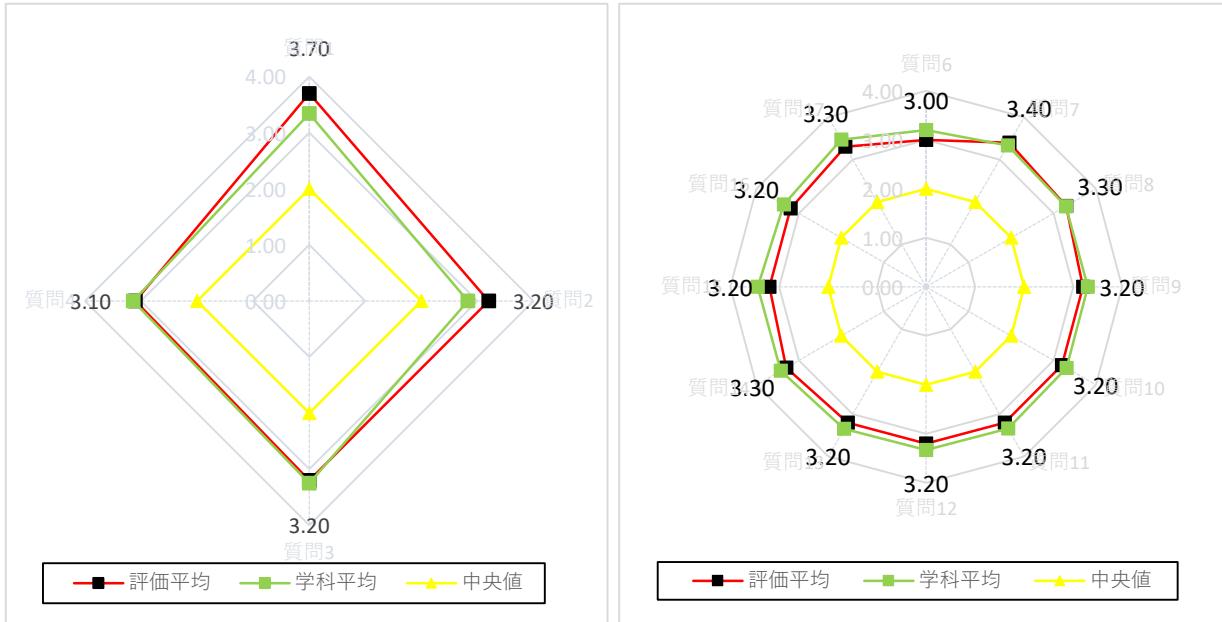
学科平均を下回り、内容的に改善しなければならないことが理解できました。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けて、さらに講義資料、内容を含めてより良くなるように改善していきたいと考えております。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法技術学演習Ⅲ (発達障害)	10名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

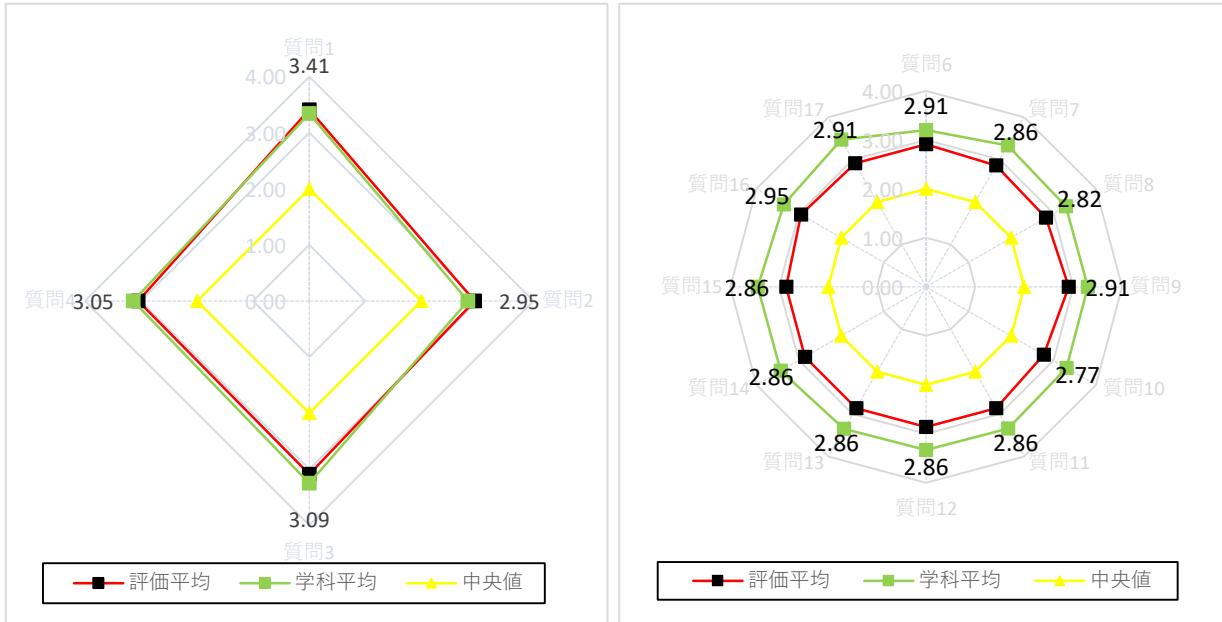
学生によるプレゼンテーション及び、科目担当者の近年のトピックスを中心とした講義であった。active learningが可能な4年生への講義であった。学科全体の平均よりも下回っており、学生の生の声を聞くと、やはり講義形式の方が慣れており頭に入りやすいという声があった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は担当教員が変更となる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法技術学演習IV (老年期障害)	22名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

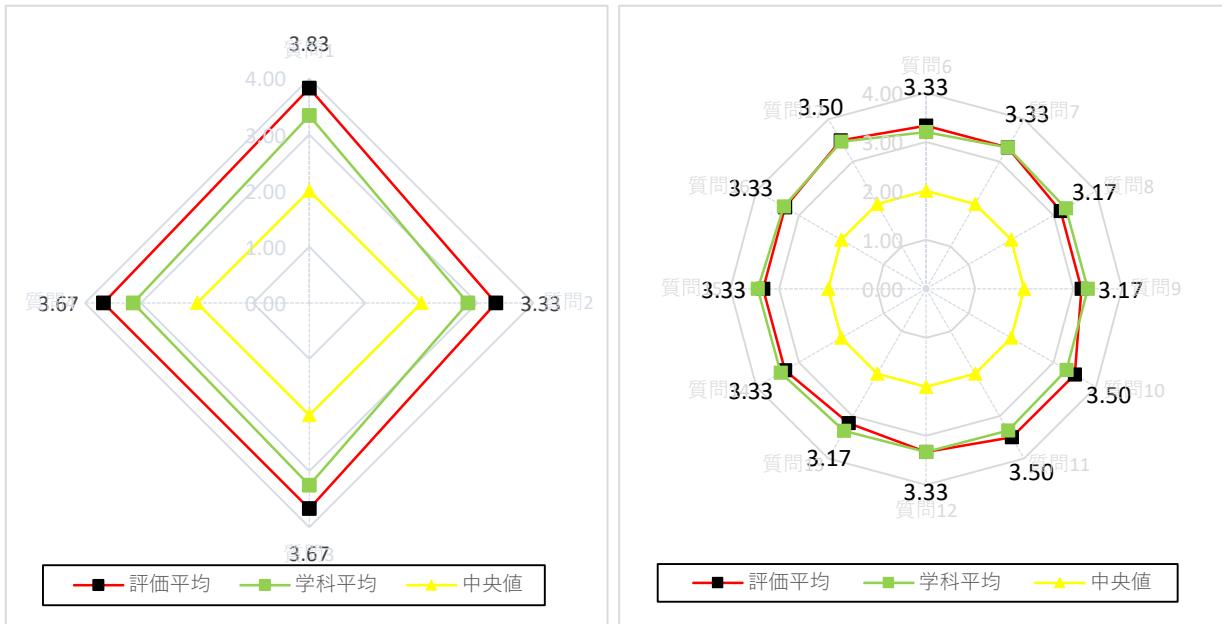
全体的に平均値を下回った。4年後期開講のため、国家試験対策に気持ちが傾き、学生自身の授業への取り組み方に偏りがあったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

実習のまとめに近い授業スタイルを改め、グループワークや国家試験対策に近い方法を再考する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		日常生活活動学	47名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

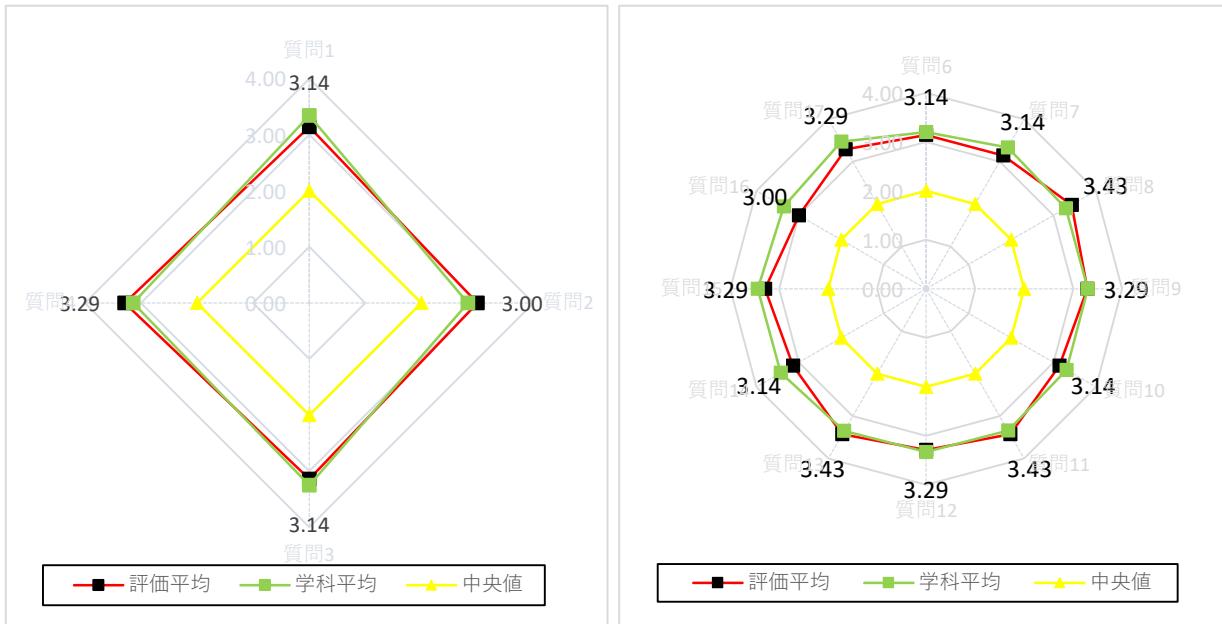
全般的に学科平均に近く、満足をしていただいている印象です。しかし、これに甘んじることなく、さらに分かりやすい講義になるように心がけていきます。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度の実施状況をベースにさらに分かりやすい講義になるように資料の改善や内容について吟味していくたいと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法技術学演習V (作業科学)	7名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

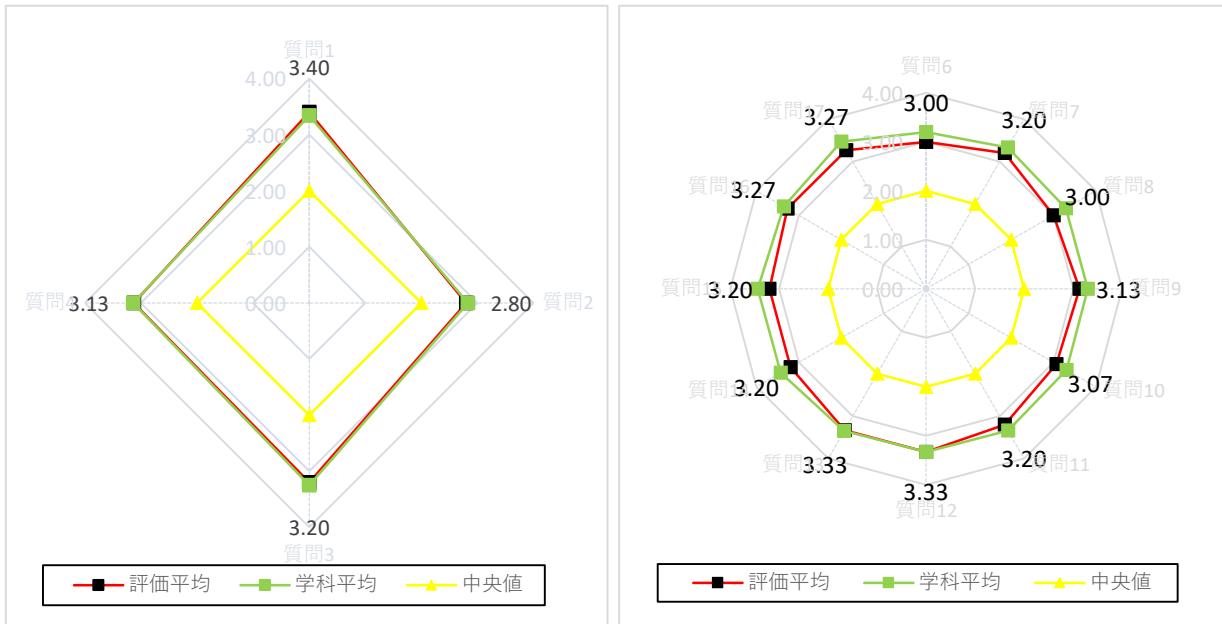
日程がとびとびになり、受講者に困難を与えてしまったかもしれません。

(3) 次年度に向けての取り組み

日程調整をしっかりこなし、アクティブラーニングに努めていきたい

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		地域作業療法学	26名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

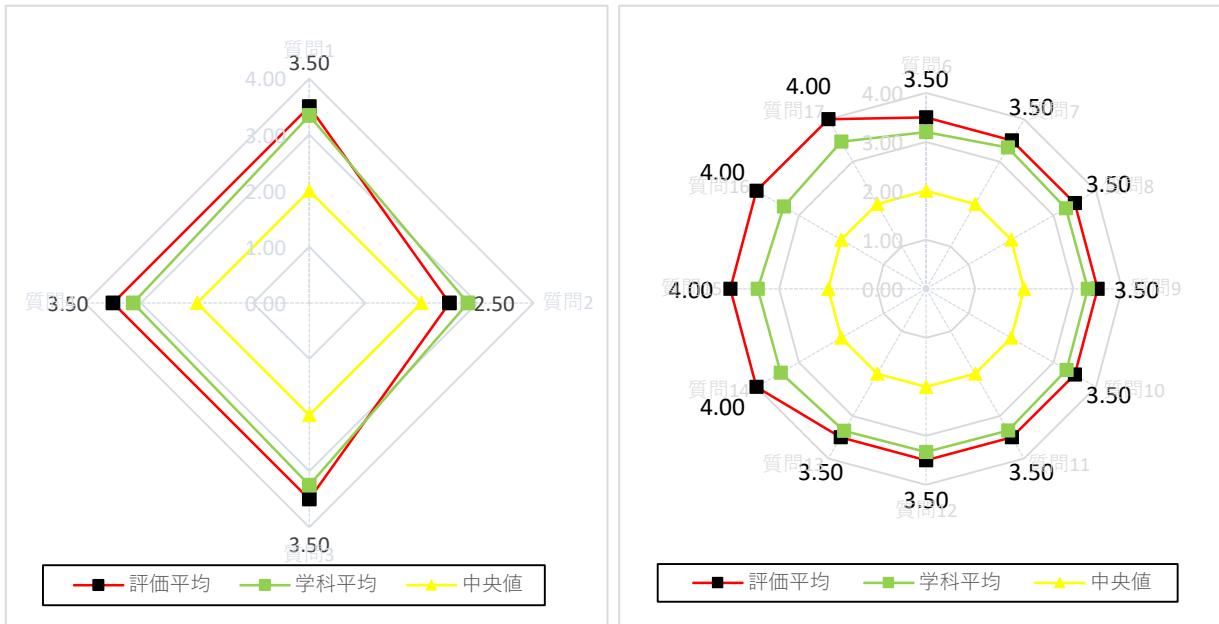
26名中15名から回答があった。概ね高評価であったが、学科平均より低い値であった。また、質問2の結果が最も低かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

本講義は、複数教員が担当するため、講義予定について学生が混乱しやすい。今後は、シラバスを毎回活用して、授業計画に関する理解につながるようにする必要がある。回答率が低かったため、今後は、講義時間中に回答を実施するための時間を設ける必要があるかもしれない。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		地域作業療法学演習	26名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

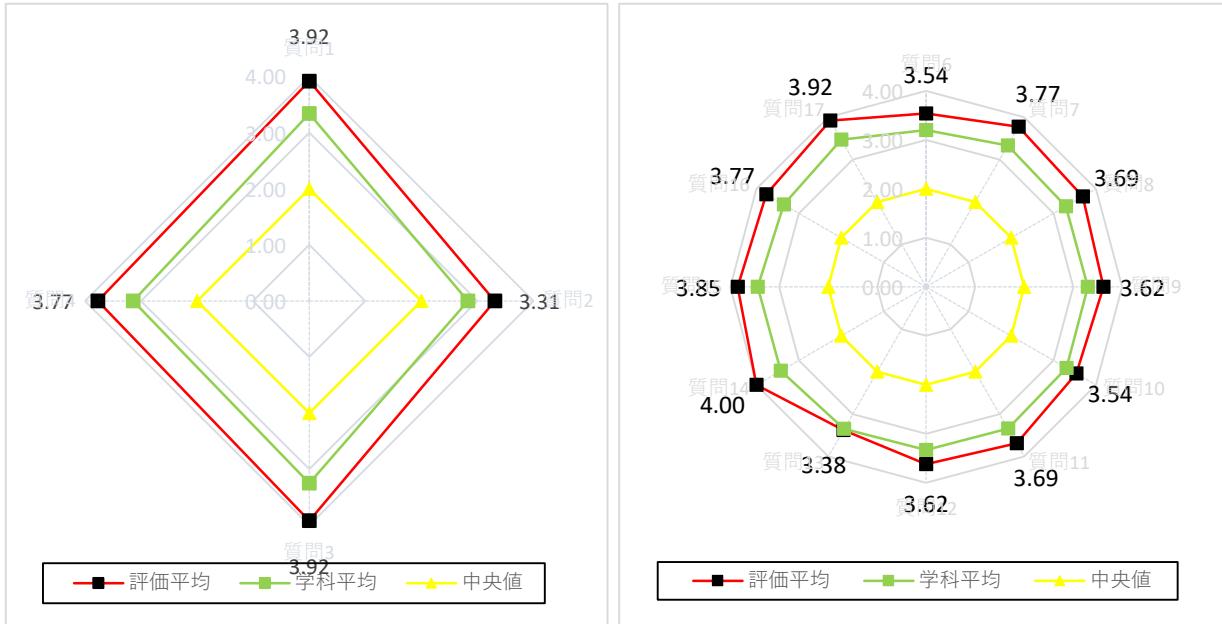
26名中2名の回答があった。回答者があまりにも少なかったため、分析はできなかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

この時期は臨床実習が控えており、回答率が低い傾向にある。また、講義アンケートの実施を口頭で依頼しているが、今後は講義時間中に回答を実施するために、時間を設ける必要があるのかもしれない。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		総合実習 I	30名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

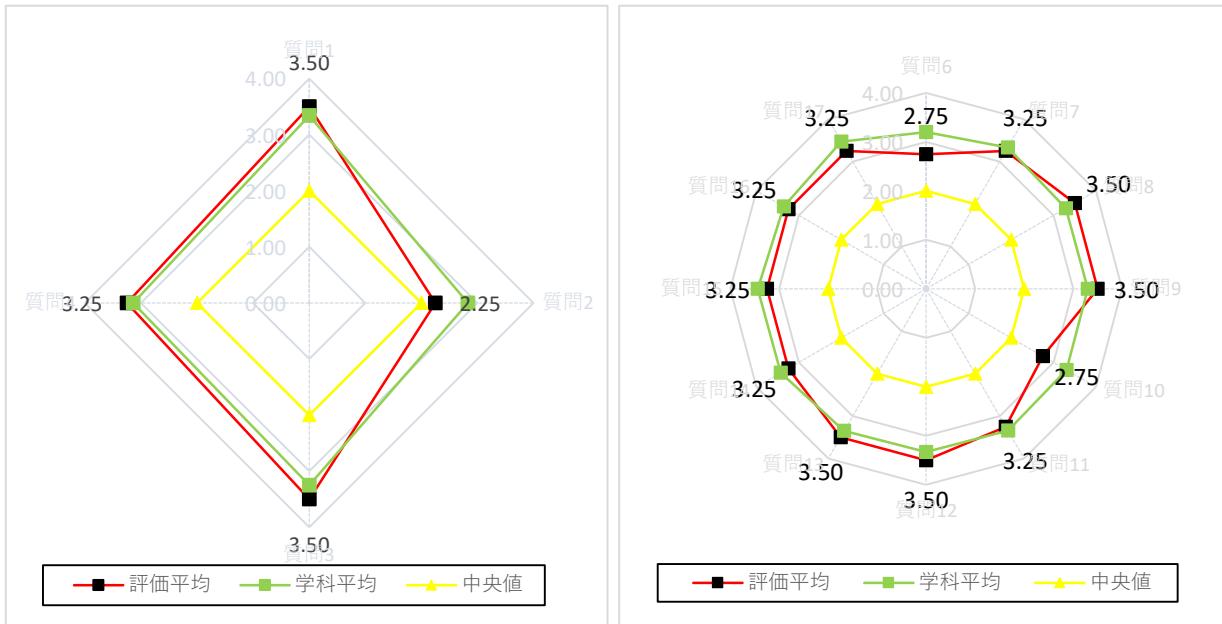
質問6, 9, 10, 12, 13の得点が低かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目は学外の実習のため、授業評価がしにくかったと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		評価実習	23名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

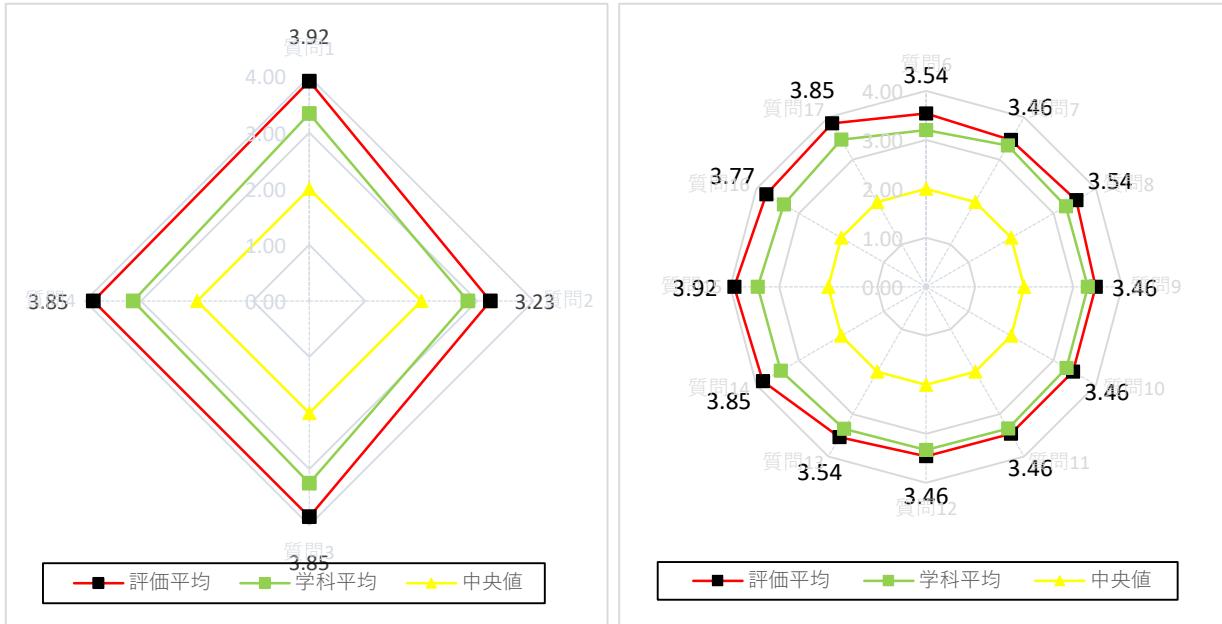
ほぼすべての項目が平均点を下回った。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目は学外の実習のため、授業評価自体がしにくかったと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		総合実習Ⅱ	31名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

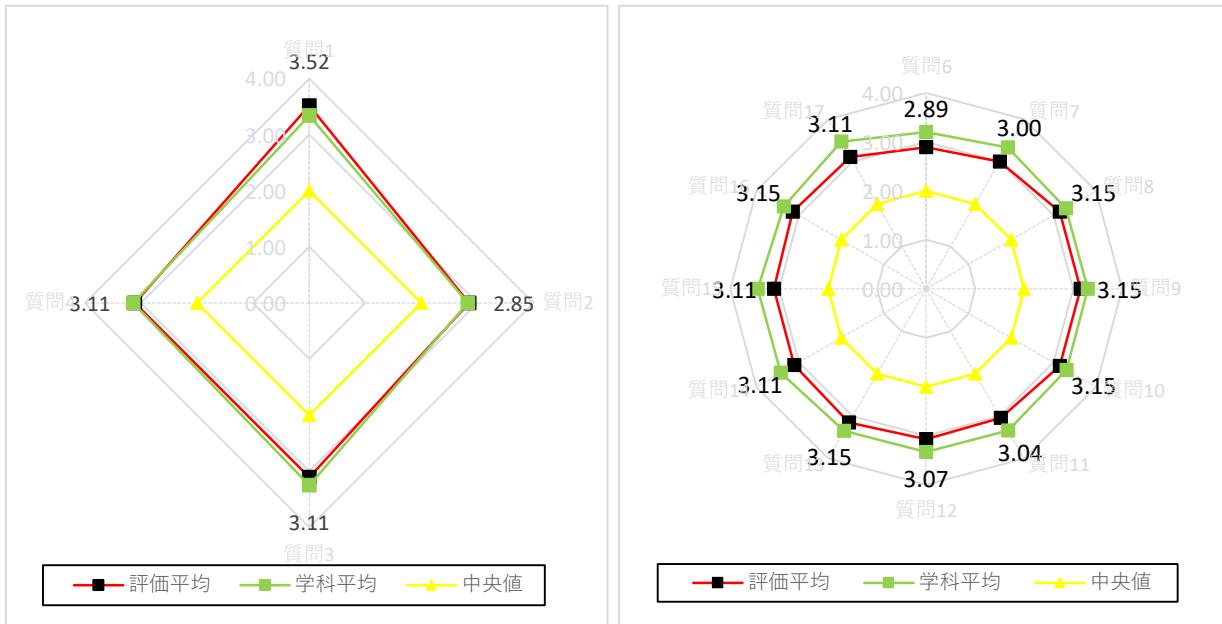
質問2、6-13の平均点が低かった。評価しづらい面もあったが総合実習Ⅰよりも点数は高かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目は学外の実習のため、授業評価自体がしにくかったと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		卒業研究	27名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

内容がまちまちの授業で、公平に評価するということは何を意味すのか？卒業研究にこの評価は適さないと考える。この評価が高い教員は、通り一遍等の講義のような卒論指導をしていることはならないでしょうか？ 科目から除外すべきである

(3) 次年度に向けての取り組み

評価から除外すべきと考えます